

横浜緑ヶ丘高等学校 第78回卒業式 校長式辞

令和8年3月3日

校長 坂元 久美子

今年度は、本当に雨の少ない一年でした。植物の生育、各地のダムの貯水、生態系のバランス等が心配される中、今日は、まさに「恵みの雨」となりました。

昔の暦、旧暦では、三月を「弥生」と呼びます。その語源は、「いよいよ」「草木が芽吹く、生える」という意味の「いやおい」という言葉にあるそうです。旧暦は現在の暦とは1ヶ月ほどのずれがあるので、現代の三月はまだ肌寒い日も多い。それでも、梅の花は見ごろとなり、いよいよ草木が芽吹く季節が始まっているのを実感します。旧体育館跡に造成した「憩いの庭」の河津桜も咲きました。芝生養生中で立ち入りを遠慮してもらっていましたが、今日に間に合うように遊歩道の整備をしていただき、今日から敷石の上を歩くことができます。「恵みの雨」の中ではありますが、良かったら後で歩いて眺めてみてください。

本日、ご来賓として、神奈川県議会議員・作山^{きくやま}ゆうすけ様、ならびに後援三徳会、同窓会牧陵会の皆様のご臨席を賜りました。卒業生の新たな門出をともにお祝いくださり、誠にありがとうございます。高いところからではございますが、御礼申し上げます。

卒業生保護者の皆様、本日はおめでとうございます。今日まで

学校の教育活動に対しご理解ご協力いただき、卒業生を最も近くで常に支えてくださいましたことに、職員一同、心より感謝申し上げます。

第78期生の皆さん、卒業おめでとうございます。私は、卒業生の全員が、三年間、それぞれの努力を重ねてきた、その日々を本当に素晴らしいと思っています。懸命に取り組んだ事実と過程を心から称賛し、皆さん一人ひとりに敬意を表します。

卒業にあたり、真の自由、本校の校訓を実践することについて、お話します。

本校の校訓【三徳一誠】。百年前の創立時に、初代校長・藤村先生が掲げられました。三徳は、『中庸』という書物に説かれる徳の中でも最も大切な「知・仁・勇」のことで、「正しい判断力を持ち・人のために尽くし・おそれない心を持つ」という意味を表します。一誠は、誠の心。藤村校長は加えて「言葉にしたことを実践し、成し遂げる」とされました。

また、現在の緑高の校章、三つの「中」から成るこの校章も、百年前にその原型がデザインされています。この「中」という字には、当時の校名・横浜第三中学校の意味と、もう一つ、「三徳一誠」の原典である『中庸』につながる「偏りのない」という意味があります。

「偏りのない」とは、バランスの取れた、という意味です。「外部から強いられることのない状態」「自分の利だけに偏らない」ことでもあります。緑高の自由は、自ら意思決定し挑戦できることで、

私たちはそれを尊重し、皆さんも実践してきたと思います。誰かや何かに強いられることなく、自分の意思で決めたことに挑戦できる。そしてそのために、自分以外の他者に対しても押し付けたりせず、他者の意思も尊重することを大切にしよう、これまで私は皆さんにお話ししてきました。

今日、緑高を巣立つ皆さんに改めて望むのは、真の自由の実践。「三徳一誠」を実践し続けることです。自分が偏りなくあるために、自ら意思決定し挑戦するために、「知」正しい判断力をもつ、すなわち広く関心を持ち、学び続け、対話を続けること。「仁」人のために尽くす、すなわち「自分の利だけに偏らない」強いることもせず、強いられることもない自分であること。「勇」緑高で学んだ自分を信じて、恐れずに挑戦すること。「一誠」皆さんの真っすぐな心を大切に、生きていってください。

皆さんには、他者を尊重し対話により物事を進める力、たくさんの可能性と努力し続ける才能があります。そして、ともに学んだ仲間と横浜緑ヶ丘高校の百年間という伝統と歴史の応援もあります。どうぞ、自分で見て自分で考え、偏らず恐れず、これからも自分らしく進んでください。

皆さんの人生が光と幸せに包まれたものであるよう、職員一同心より願っています。

本日は、卒業、誠におめでとうございます。

以上で、私の言葉を終わります。